

救急看護師のクリニカルラダー

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズを捉える力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味を踏まえニーズをとらえる
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら健康問題に緊急性のあるケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手の状況から緊急度を捉えることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報を元に、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度・緊急度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況(場・緊急性・重症度)の判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 緊急かつ複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる <input type="checkbox"/> 看護手順やガイドラインに沿って基本的看護技術を用いて看護援助ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に異常を察知したときは、他者に伝えることができる <input type="checkbox"/> 指導を受けながらケアの受け手や状況(場・緊急性・重症度)に合わせて基本的援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況から回復や悪化への変化を予測することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)を判断し初期対応をすることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)に応じた援助ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)、個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)から回復や悪化への変化を予測し、その予後への対応の優先度を判断できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)を判断し、適切なケアを選択し実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)から回復や悪化への変化を予測し、顕在的・潜在的ニーズを抽出したケアに工夫ができる	<input type="checkbox"/> 情報収集を繰り返し、ケアの受け手の状況(場・緊急性・重症度)から心身の危機的状況の変化を含む幅広い視野で回復や悪化への変化を判断することができる <input type="checkbox"/> 予防的介入を実践し評価することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズにこたえるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性を考慮して根拠に基づく看護を実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的な看護実践と評価ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追及できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、他職種との連携ができる	ケアの受け手を取り巻く他職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、他職種の力を引き出し連携に活かす
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 情報を収集するに当たって急を要するものは何か考え共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上でそれぞれと積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者と密にコミュニケーションをとることができる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> 緊急性のあるケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手と実施するケアについて意見交換ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手のニーズの優先順位を考え多職種と共有することができる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手が置かれている状況(場・緊急性・重症度)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況(場・緊急性・重症度)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するように、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、他職種も含めた調整的役割を担うことができる	
	【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	<input type="checkbox"/> 危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々がこれまで生活してきた背景と意思との関連を意図的に確認することができる <input type="checkbox"/> 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	<input type="checkbox"/> 危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意図的に必要な場を整えることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々が意思決定をする際に必要な情報を共に整理しながら提供することができる <input type="checkbox"/> 危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定を行うに当たって意向の違いがあることを理解できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いをメンバーや多職種に代弁できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の思いや考えを関連づけたケアをチームに働きかけることができる	<input type="checkbox"/> 危機的状況にあるケアの受け手や人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを調整し、チーム内でセンサス得ることができる <input type="checkbox"/> 意思決定とそのプロセスを倫理的に考え、ケアの受け手や周囲の人々の状況(場・緊急性・重症度)を考慮しながらケアを展開できる <input type="checkbox"/> 意思決定のプロセスや決定後のゆらぎに寄り添うことができる <input type="checkbox"/> 決定意思には医療者が全面的に支援することを表明することができる	<input type="checkbox"/> 適切な資源を積極的に活用し、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる <input type="checkbox"/> 法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の人生観と意思決定を統合的にとらえることができる	

別表 救急看護師のクリニカルラダー 救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズを捉える力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味を踏まえニーズをとらえる
		【JNA行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況から緊急度を捉えることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報を元に、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながら健康問題に緊急性のあるケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手の状況から緊急度を捉えることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報を元に、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度・緊急度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況(場・緊急性・重症度)の判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 緊急かつ複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		<実践例>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■助言を受けながらケアの受け手の状態に合わせたバイタルサインや観察から得られた身体情報を用いてフィジカルアセスメントを行う</li> <li>■助言を受けながらケアの受け手の苦痛(痛み、不快感等)に関する精神的情報を得る。</li> <li>■助言を受けながら健康問題に影響しているケアの受け手を取り巻く環境の社会的情報を得る</li> <li>■助言を受けながらケアの受け手の信念や信仰がどのように健康問題に影響しているかスピリチュアルの情報を得る</li> <li>■助言を受けながら、生理的機能の変化による生命危機や苦痛の増強から緊急度をとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1人でケアの受け手の状態に合わせたバイタルサインや観察から得られた身体情報を用いてフィジカルアセスメントを行う</li> <li>■1人でケアの受け手の苦痛(痛み、不快感等)に関する精神的情報を得る。</li> <li>■1人で健康問題に影響しているケアの受け手を取り巻く環境の社会的情報を得る</li> <li>■1人でケアの受け手の信念や信仰がどのように健康問題に影響しているかスピリチュアルの情報を得る</li> <li>■1人で生理的機能の変化による生命危機や苦痛の増強から緊急度をとらえる</li> <li>■助言を受けながら体験したことを活用し、ケアの受け手の状況から直近の予後を予測する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自らの判断でケアの受け手の状態に合わせたバイタルサインや観察から得られた身体情報を用いてフィジカルアセスメントを行う</li> <li>■自らの判断でケアの受け手の苦痛(痛み、不快感等)に関する精神的情報を得る</li> <li>■自らの判断で健康問題に影響しているケアの受け手を取り巻く環境の社会的情報を得る。</li> <li>■自らの判断でケアの受け手の信念や信仰がどのように健康問題に影響しているかスピリチュアルの情報を得る</li> <li>■自らの判断で生理的機能の変化による生命危機や苦痛の増強から緊急度をとらえる</li> <li>■得た情報からケアの受け手の全体像を把握し、個性を踏まえて抱えている健康問題をとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自ら予測的な判断で意図的にケアの受け手の個性を踏まえバイタルサインを観察し、詳細なフィジカルアセスメントを行い身体的情報を得る</li> <li>■自ら予測的な判断で意図的にケアの受け手の個性を踏まえ、他覚的に苦痛(痛み、不快感等)がないか情報を得る</li> <li>■自ら予測的な判断で意図的にケアの受け手の個性を踏まえ取り巻く環境の取り巻く環境の影響の社会的情報を得る</li> <li>■自らの予測的な判断で意図的にスピリチュアルな側面において、ケアの受け手の個性を踏まえ、信念や信仰がどのように健康問題に影響しているか情報を得る</li> <li>■仮説をもって情報収集し、意図的に得た情報からケアの受け手の全体像を把握し、個性を踏まえて抱えている健康問題をとらえ、統合的なトード、優先度を判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■多角的視点から迅速にケアの受け手を取り巻く状況をとらえ判断し、多様なニーズをとらえ、介入の必要性を判断する</li> <li>■ケアの受け手を生活者としてとらえ、予後や治療による影響、予測される日常生活、多様な情報を収集し、多角的な側面からニーズをとらえる</li> <li>■地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気付く</li> </ul>

別表 救急看護師のクリニカルラダー 救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【JNA行動目標】	<input type="checkbox"/> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる <input type="checkbox"/> 指導を受けながらケアの受け手に基本的援助ができる <input type="checkbox"/> 看護手順やガイドラインに沿って基本的看護技術を用いて看護援助が援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性に合わせて、適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性をとらえ、看護実践に反映できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズにこたえるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的な看護実践ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる <input type="checkbox"/> 看護手順やガイドラインに沿って基本的看護技術を用いて看護援助ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に異常を察知したときは、他者に伝えることができる <input type="checkbox"/> 指導を受けながらケアの受け手や状況（場・緊急性・重症度）に合わせて基本的援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況から回復や悪化への変化を予測することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）を判断し初期対応をすることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）に応じた援助ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）、個性性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）から回復や悪化への変化を予測し、その予後への対応の優先度を判断できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）を判断し、適切なケアを選択し実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性をとらえ、看護実践に反映できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症性）から回復や悪化への変化を予測し、顕在的・潜在的ニーズを抽出したケアに工夫ができる	<input type="checkbox"/> 情報収集を繰り返し、ケアの受け手の状況（場・緊急性・重症度）から心身の危機的状況の変化を含む幅広い視野で回復や悪化への変化を判断することができる <input type="checkbox"/> 予防的介入を実践し評価することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズにこたえるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性を考慮して根拠に基づき看護を実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的な看護実践と評価ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追及できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	<実践例>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指導を受けながらケアの受け手に対して手順に沿ったケアを実施する</li> <li>■ 基本的看護技術については、新人研修ガイドラインにおける看護技術の到達目標を意識して実践する</li> <li>■ ケアの受け手に対して基本的生活行動の援助を行う。ケアの受け手や周囲の人々のニーズや医療処置の状況によっては、指導を受けて実践する</li> <li>■ ケアの受け手の異常を察知した際は、タイムリーにリーダーなどの他者に報告する</li> <li>■ 緊急時・急変時には、対応の場において流れを把握し指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 助言を受けながら体験したことや知識を活用し、ケアの受け手の状況から直近の変化を見越して行動する</li> <li>■ 標準的な看護計画にケアの受け手や周囲の人々の状況を加味して計画を追加・変更し、自立して実践する。ケアの受け手や周囲の人々のニーズや医療処置の状況によっては支援を求める</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々の生理的機能の変化による生命危機や苦痛の増強から緊急度をとらえて実践する</li> <li>■ 緊急時・急変時には指示されたケアを責任をもって実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々に起こりうる事態から優先度や緊急度を判断し、チーム内で情報を共有する</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々の入院前の習慣などの個性性を考慮し、主体性を尊重した計画を実践する</li> <li>■ 複数のケアの受け手や周囲の人々のニーズを的確にとらえ、ケアの優先順位を判断し実践する</li> <li>■ 緊急時・急変時には、その場の状況に合わせて役割をチームメンバーへ指示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報収集を繰り返しながら患者の状況を的確に判断し、今後起こりうることを予測したうえで重症化を回避するケアを実践・評価する</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々の顕在的、潜在的ニーズにこたえるために幅広い選択肢からの提案やケアの実践ができる。たとえば、患者に対し疾患予後や治療による影響、患者の生活を考慮した適切なケアを提供・実践する</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々の状況や個性性に適した根拠を駆使し、回復や安楽・安寧に向けたケアを実践する</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々のニーズをキャッチし、理解や意向の確認ができる場の設定を行う</li> <li>■ 緊急時・急変時には、原因や今後の展開を予測しながらケアの受け手や周囲の人々へ対応する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、QOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践する。たとえば、疾患の予後や治療の影響により、ケアの受け手や周囲の人々の意向に沿った生活が困難な状況にあっても、価値観、尊厳を尊重し可能性を広げるケアを提案する</li> <li>■ ケアの受け手や周囲の人々がどのような複雑な背景や状況にあっても最適と考えられる個別的なケアを選択実践し、ニーズに則したものが、さらに効果的なケアはないか評価する</li> <li>■ ケア開発のための努力を継続して行う</li> <li>■ 緊急時・急変時には、複雑な病態の原因や展開を予測しながらケアの受け手や周囲の人々へ対応し、ケアを随時に評価し、修正や追加を提案する</li> </ul>	

別表 救急看護師のクリニカルラダー 救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、他職種との連携ができる	ケアの受け手を取り巻く他職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、他職種の力を引き出し連携に活かす
		【JNA行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上でそれぞれ積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 関係者と密にコミュニケーションをとることができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手とケアについて意見交換ができる <input type="checkbox"/> 積極的に他職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手が置かれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと関係者に積極的に働きかけられることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 情報を収集するに当たって急を要するものは何か考え共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上でそれぞれ積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者と密にコミュニケーションをとることができる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> 緊急性のあるケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手と実施するケアについて意見交換ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手のニーズの優先順位を考え多職種と共有することができる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手が置かれている状況（場・緊急性・重症度）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に他職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況（場・緊急性・重症度）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと関係者に積極的に働きかけられることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		<実践例>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■助言を受けながら、ケアの受け手や周囲の人々から意図的に情報を得て関係者と共有する。たとえば、生活歴や家族内役割、アレルギー歴や緊急連絡先、治療歴、体内埋め込み型医療機器など</li> <li>■得た情報を報告・連絡し、助言を受けながら関係者と共有する</li> <li>■他の看護師の助言や協働から、効果的なケアや継続看護についてフィードバックを受ける</li> <li>■ケアの受け手の状態や実践したことを他看護師に報告・連絡・相談をする。カンファレンスに参加し、助言を受けながら関係者と情報を共有する</li> <li>■多職種（医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャル・ワーカー、ケースワーカー、緩和ケアチーム、RSTチームなど）の役割を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■積極的に発言することで患者等のケアの受け手や周囲の人々の思いや意向などの必要な情報を関係者と共有する。また、情報交換により看護の方針を確認する</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々に関わる多職種の役割や分担と連携の必要性を理解する。また、助言を受けながら体験したことを活用し、ケアの受け手や周囲の人々への介入に必要な関係者を特定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■患者の個別的なニーズに対応するために、必要な職種がわかり関係者に支援や協力を求める。自ら職種間調整を行い、タイミングを逸さずにカンファレンスを開催する。カンファレンスで得た結果を共有する</li> <li>■緊急時・急変時には、多職種とコミュニケーションを図り、報告・連絡・相談を率先して行う。チーム内に役割分担と調整、明確な目標を伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケアの受け手や周囲の人々の状況に応じて、効果的な医療が提供されるようにチームメンバーを調整する</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々への介入の目標が明確になるためのカンファレンスを意図的に開催する</li> <li>■カンファレンスでは職種の役割が効果的に発揮できるように相互理解を示して調整し、ファシリテーションを行う</li> <li>■カンファレンスで決定した介入やプロセスの評価を行い、修正や追加を行う。必要時協働や調整を働きかける</li> <li>■緊急時・急変時には、ケアの受け手や周囲の人々の状況に予測性を持ちながら対応し、職種間調整を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■複雑な問題解決に向け連携する際にチーム全体を俯瞰し、各職種が役割を効果的に発揮できるよう働きかける</li> <li>■関係者、多職種間連携が効果的に機能するよう、中心的役割を担う</li> <li>■各職種の役割を明確化したうえで、チームの目標を共有し、結束して関わるような連携を促進する</li> </ul>

別表 救急看護師のクリニカルラダー 救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、他職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【JNA行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを他職種に代弁できる	□ケアの受け手や人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
		【救急看護行動目標】	□助言を受けながら、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□危機的状況にあるケアの受け手とその周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □ケアの受け手や周囲の人々がそれまで生活してきた背景と思いと関連を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定を行うために必要な場を整えることができる □ケアの受け手や周囲の人々が意思決定をする際に必要な情報を共に整理しながら提供することができる □危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定を行うに当たって意向の違いがあることを理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いをメンバーや多職種に代弁できる □ケアの受け手や周囲の人々の思いや考えを関連づけたケアをチームに働きかけることができる	□危機的状況にあるケアの受け手や人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを調整し、チーム内でコンセンサス得ることができる □意思決定とそのプロセスを倫理的に考え、ケアの受け手や周囲の人々の状況（場・緊急性・重症度）を考慮しながらケアを展開できる □意思決定のプロセスや決定後の揺らぎに寄り添うことができる □決定意思には医療者が全面的に支援することを表明することができる	□適切な資源を積極的に活用し、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる □ケアの受け手や周囲の人々の人生観と意思決定を統合的にとらえることができる
		<実践例>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■助言を受けながら、ケアの受け手や周囲の人々の語りを聞くことができる。</li> <li>■語りを指導者に報告し、指導を受けながら具体的な支援を考慮することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケアの受け手や周囲の人々が危機的状況における理解や判断の状況を意図的に関わることで探ることができる</li> <li>■危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が行う理解や判断の過程に意図的に関わり、その状況を探る</li> <li>■情報を整理し、ケアの受け手や周囲の人々の思いを知り意向や希望を知る</li> <li>■必要時に支援を求めながらケアの受け手や周囲の人々の考えをケアに反映し、反応を確認、評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケアの受け手や周囲の人々が行う意思決定に必要な準備を整えることができる。たとえば、インフォームド・コンセントの前に意向や考え、疑問を確認する。事前に多職種と打ち合わせをする。タイミングや体調などを考慮する。プライバシーを守れる環境を調整する。</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々が意思決定をするために十分な情報を得ているか確認する。たとえば予後率などの数値的データ、治療成績、ケアの受け手の身体的データなど。</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々はそれぞれに価値観が異なることを意識し、意思決定における意向の違いがないかを確認し、時には個別に確認する</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々に意向の違いがあるときには、その事実を多職種に述べ、合意形成の必要性を考慮することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定するには、多くの葛藤があることをふまえ、その過程に寄り添うことができる。たとえば、感情を表出することを抑制しないよう働きかける。傾聴をし共感するコミュニケーションを取ることができる。どの感情も否定せずに承認する。</li> <li>■ケアの受け手や周囲の人々に意向の違いがあるときには、互いの意向の意味づけを承認しながら、誰のための意思決定なのかを働きかける。ケアの受け手と周囲の人々との間で合意形成できるよう、必要な情報を提供し、時に寄り添いながら支援する。</li> <li>■決定した意思は、時間制限のある場合以外はいつでも変更が可能であることを伝えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■MSWや介護専門員、社会的リソースやケアの受け手や周囲の人々との親しい人や々々、コミュニティの力を調整し、意思決定のプロセスにケアの受け手の価値観が反映できるよう工夫する</li> </ul>